

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 社会性を育む支援について

### 【状況】

学級の中には、場の空気や相手の気持ちが読めない、友達とトラブルになる子どもがいるのではないのでしょうか。

### 【背景】

コミュニケーションスキルが未熟なため相手の気持ちを察したり、表情を読み取ることが困難子ども

衝動性が強く、思ったことをすぐに行動や口に出してしまう

自分が優先で相手の気持ちが分からない 認知の偏り・歪み

例 馬鹿だな→本気で怒る 怖い表情で〇〇という>優しい表情で〇〇という

ご飯にする→おかずは? つまらない物ですが・・・→あげない方が良い

例:「太っているね」「その髪型に合わないね」などと、思ったことをそのまま口に出してしまう。場面や状況から、その人がどんな思いをしているかを想像することができないのであり、悪気は全くない。「そんなことを言ってはいけない」と言われても自分のどこがいけないのか分からない。遠回しな表現や例え話も分からないことがあり、人とのコミュニケーションがうなくとれない。

言葉や表現を字義通りに受け取る→猫の手も借りたい?プリントに目を通して?

自閉症スペクトラムの特性 自然に身に付く 栗原類さんのエピソード

道徳性と共感性

### 【支援方法】

- 1 社会的常識を身に付ける支援（物事の因果関係を判断できるが、実際場面で生かせない）
  - ・暗黙の了解・ルール・常識・期待を見えるように示す。
  - ・相手の気持ちや場の状況を視覚的に提示する。
  - ・実際の場に適した行動ができたときに、「〇〇すると△△できるんだ」と、よい方法や行動を含めて言葉で評価する。
  - ・言葉や図で「～したら△△になる」と示して経過や因果関係を分かりやすくする。
  - ・ソーシャルスキルトレーニングを実施する。（その都度適切な行動をモデルで示したりロールプレイを行ったりする、絵カードを利用したり、問題行動の解決方法を視覚化したりする）
  - ・自分の感情をコントロールするコツを身に付ける。  
（別室で休む 言葉を唱える 深呼吸をする 気持ちの温度計）
  - ・モデルとなる友達の協力を得る。
  - ・勝つことや一番になる以外にも、負けても泣かない、間違ったところを直す等、

新しい価値観をもてるように、他者と心を通わせる心地よさを体験させる。

- ・私の視点（自分から見てどうか）のほかに、相手の視点（あなたから見てどうか）と客観的視点（客観的に見てどうか）という異なる三つの視点をもてるようにする。
- ・マイナスをプラスに変換する「リフレーミング」を身に付ける。  
例：半分しかできていない（マイナス思考）      半分もできた（プラス思考）  
    〇〇さんが通りすがりに私の机の物を落としてそのまま何も言わずに行った  
    →〇〇さんには急ぐ事情があったのではないか  
    怒ることで問題は解決するだろうか  
    自分の勉強のやり方について「こういうふうに」やったほうがいいのでは」と言われた  
    →バカにされた（マイナス思考）  
    心配してアドバイスをしてくれた（プラス思考）
- ・定期的に友達「いいところ探し」を行い、自己理解や他者理解を促す。

### 【追加】

コミュニケーションスキルが未熟なため相手の気持ちを察したり、表情を読み取ることが困難子ども

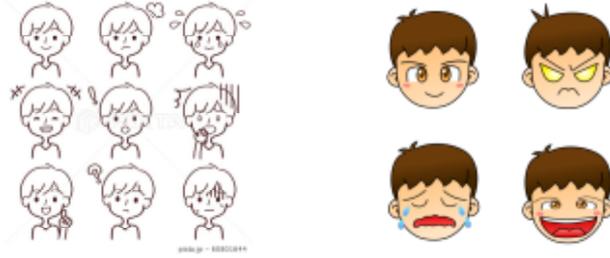
衝動性が強く、思ったことをすぐに行動や口に出してしまう

自分が優先で相手の気持ちが分からない

例：「太っているね」「その髪型に合わないね」などと、思ったことをそのまま口に出してしまう。場面や状況から、その人がどんな思いをしているかを想像することができないのであり、悪気は全くない。「そんなことを言っってはいけない」と言われても自分のどこがいけないのか分からない。遠回しな表現や例え話も分からないことがあり、人とのコミュニケーションがうなくとれない。  
言葉や表現を字義通りに受け取る→猫の手も借りたい？プリントに目を通して？

- ・「〇〇のときは△△します」とパターンごとに一つずつ教える。  
    「みんなが静かにしているときはあなたも静かにします」
- ・遠回しの言い方をしない。例：「靴下が汚れてるんじゃない」
- ・表情や身振りの・しぐさ、口調にも相手の意思や感情が含まれていることを教える。（いろいろな表情や身振り・しぐさなどを実際に見せたり、絵や写真で見せながら、その意味を具体的に教える。）
- ・「みんな体のことはいわれなくないんだよ」と、体や顔については、思ったことをそのまま言わないように指導する。
- ・相手の気持ちが分からないことは特性なので、本人に悪気はない。「なぜ、人の気持ちが分からないんだ」と責めたり、「どうしてそんなひどいことが言えるの」と非難しない。また、「相手の気持ちになってみなさい」「そんなこと言われたらどんな思いがするのかわかえなさい」も好ましくない。人にはこういう感情があることを、地道に一つ一つ教えて、覚えさせていく。
- ・人の気持ちを理解しやすくする工夫  
    ①喜怒哀楽を表した線画のカードと写真を活用して、どんな気持ちなのか推測さ

せる。



② 4コママンガの吹き出しのせりふを隠して、場面や状況から相手がどう感じて、そのような行動をとっているのかを推測させる。



③ イラストを見て人の表情などから状況を推測させる。

例：「試合に勝った」という場面の写真を見せて状況を考える。

実生活で起きたエピソードを取り上げる。

大人が相手の子どもの気持ちを代弁したり、状況を解説する

表情のカードや写真を使って、相手の気持ちを考える遊びをする

「××という言い方をすると相手は悲しい気持ちになるから、〇〇と言いましょ」と対応の仕方を伝える。

Q 1：検査でどのような力を知ることができますか？

A 1：①新版K式発達検査2001（3領域から構成されている）



—子どもの気持ちを切り替えるポイント—

①予告：「あと1回（〇分）でおしまだよ」 言葉以外に音楽や音で知らせる。

②約束：「おもちゃを片付けたらおやつにするよ」

③評価：できたとき、約束を守ったとき、遅れてもよい行動をしたときにほめる。

④共感：「もっと遊びたかったのによく我慢したね」と子どもの気持ちを代弁する。（苦しい気持ちを受け止めてもらって我慢する方が、立ち直りは早い）

⑤キーワード化：「こんなときもあるさ」「ドンマイ」「次があるさ」等、キーワードを唱えて切り替えのきっかけとする。（言葉には行動や思考を調整する機能がある）

